思い一つ 大躍進

神奈川大5位

5位でゴールする神奈川大のアンカー・中神恒也＝東京・大手町

復活ののろしが上がった。復路でも安定してピッチを刻んだ神奈川大が前回13位から5位に大躍進。全日本（大学駅伝）は予選で負けてチームとして最初で最後の駅伝。「一人一人が役割を果たしてくれた」。同大史上初の2区での区間賞に輝き、シード権獲得の原動力となった主将鈴木健吾は仲間と抱き合って喜んだ。

2005年以来の目標を射程に入れての復路。6区鈴木祐希が勢いを手放さなかった。前回同じ6区で区間15位に沈んだ3年生は「自分が流れをつくる」と6キロすぎで駒大を捉え、区間4位の力走。継いだ中平がさらに順位を押し上げ、8区大塚は区間2位の快走でトップ10入りを確実にした。

12年ぶりシード「満点」

「百点満点。6、7、8区が最高の走りをして、貯金をつくってくれた」。大後栄治監督（52）の喜びもひとしおだ。1997、98年に連覇を果たしたが、レースのスピード化に乗り遅れ、低迷が続いた。スカウト網の強化やスタッフの細かな栄養管理など強化策を講じて6年目。鈴木健吾というエースも育ち、1万メートルの上位10人の平均タイムでは出場21チーム中8位と数字的な根拠を持って臨んでいた。

調整も万全だった。感染症のリスクを避けるため、昨年12月23日には登録メンバー16人を残して合宿所から全員を自宅に帰した。アンカー中神は「そこまで本気なんだなと。あれでチームが引き締まった」と振り返る。

大後監督は言う。「やっとスタートラインに立てた。近い将来には優勝候補に名乗りを上げたい」（本田　典紀彦）

【神奈川大区間記録】

区	選手名	学年	記録	区間	総合
6区	鈴木 祐希	③	59分46秒	④	⑤
7区	中平 英志	④	1時間4分56秒	④	④
8区	大塚 倭	③	1時間6分25秒	②	④
9区	大川 一成	③	1時間12分5秒	⑤	④
10区	中神 恒也	④	1時間13分36秒	⑮	⑤

▽総合成績

順位	大学	記録
①	青学大（梶谷、一色、秋山、森田、貞永、小野田、田村、下田、池田、安藤）	11時間4分10秒
②	東洋大	11時間11分31秒
③	早大	11時間12分26秒
④	順大	11時間12分42秒
⑤	神奈川大	11時間14分59秒
⑥	中央学院大	11時間15分25秒
⑦	日体大	11時間15分39秒
⑧	法大	11時間15分56秒
⑨	駒大	11時間16分13秒
⑩	東海大	11時間17分0秒
⑪	帝京大	11時間20分24秒
⑫	創価大	11時間20分37秒
⑬	大東大	11時間23分45秒
⑭	拓大	11時間24分22秒
⑮	上武大	11時間24分45秒
⑯	国学院大	11時間28分45秒
⑰	山梨学院大	11時間29分17秒
⑱	明大	11時間29分17秒
⑲	日大	11時間30分38秒
⑳	国士舘大	11時間49分18秒
	関東学生連合	11時間31分29秒

（青学大は3年連続3度目の優勝。10位までが来年のシード権獲得。17、18位は区間成績の比較による。関東学生連合はオープン参加のため順位なし）

▽復路成績

順位	大学	記録
①	青学大	5時間30分25秒
②	東洋大	5時間35分6秒
③	日体大	5時間35分10秒
④	東海大	5時間35分16秒
⑤	法大	5時間35分38秒
⑥	順大	5時間36分33秒
⑦	神奈川大	5時間36分48秒
⑧	中央学院大	5時間37分5秒
⑨	早大	5時間38分8秒
⑩	大東大	5時間38分16秒
⑪	駒大	5時間38分27秒
⑫	帝京大	5時間40分18秒
⑬	創価大	5時間41分12秒
⑭	国学院大	5時間41分53秒
⑮	拓大	5時間43分46秒
⑯	明大	5時間44分35秒
⑰	上武大	5時間45分32秒
⑱	山梨学院大	5時間47分21秒
⑲	日大	5時間50分43秒
⑳	国士舘大	5時間54分21秒
	関東学生連合	5時間41分44秒

（関東学生連合はオープン参加のため順位なし）

【区間1位記録】

▽6区（20.8キロ）
秋山清仁（日体大）
58分1秒＝区間新

▽7区（21.3キロ）
石橋安孝（東海大）
1時間4分42秒

▽8区（21.4キロ）
下田裕太（青学大）
1時間4分21秒

▽9区（23.1キロ）
野村峻哉（東洋大）
1時間9分47秒

▽10区（23キロ）
作田直也（順大）
1時間11分0秒

東海大10位

驚異的な巻き返し

上級生躍動 シード死守

東海大は1年生4人を並べた往路で15位と苦しんだが、復路で驚異的な巻き返しを見せてシード権を死守した。

原動力は強力ルーキーの陰に隠れていた上級生たちだ。7区の4年生石橋が区間賞の快走で11位に押し上げると、8区の春日も続いた。

「1年に苦しいところを任せてしまったのは僕らの責任。その苦しい経験を来年へつなげさせるためにもシード権を取りたかった」。昨年2区を走った3年生がシード圏内の10位に浮上させ、続く3、4年生も順位を保ってゴールした。

力のあるランナーが多く入学してきた今季。例年は1年生に任せる寮の仕事を減らすなど心を砕いてきたが、サポート役だけに終わるつもりはなかったという。

結実した復路4位。立役者の石橋は照れ笑いを浮かべる。「さすがだなって言わせたかった。やっと4年の力を示せたかな。俺でも区間賞を取れたんだからおまえらも取れると言いたい」。上級生の心意気は後輩の糧となる。（須藤　望夢）

【東海大区間記録】

区	選手名	学年	記録	区間	総合
6区	中島 怜利	①	59分56秒	⑧	⑮
7区	石橋 安孝	④	1時間4分42秒	①	⑪
8区	春日 千速	③	1時間6分58秒	⑤	⑪
9区	川端 千都	③	1時間11分21秒	⑤	⑩
10区	林 竜之介	④	1時間12分19秒	⑦	⑩

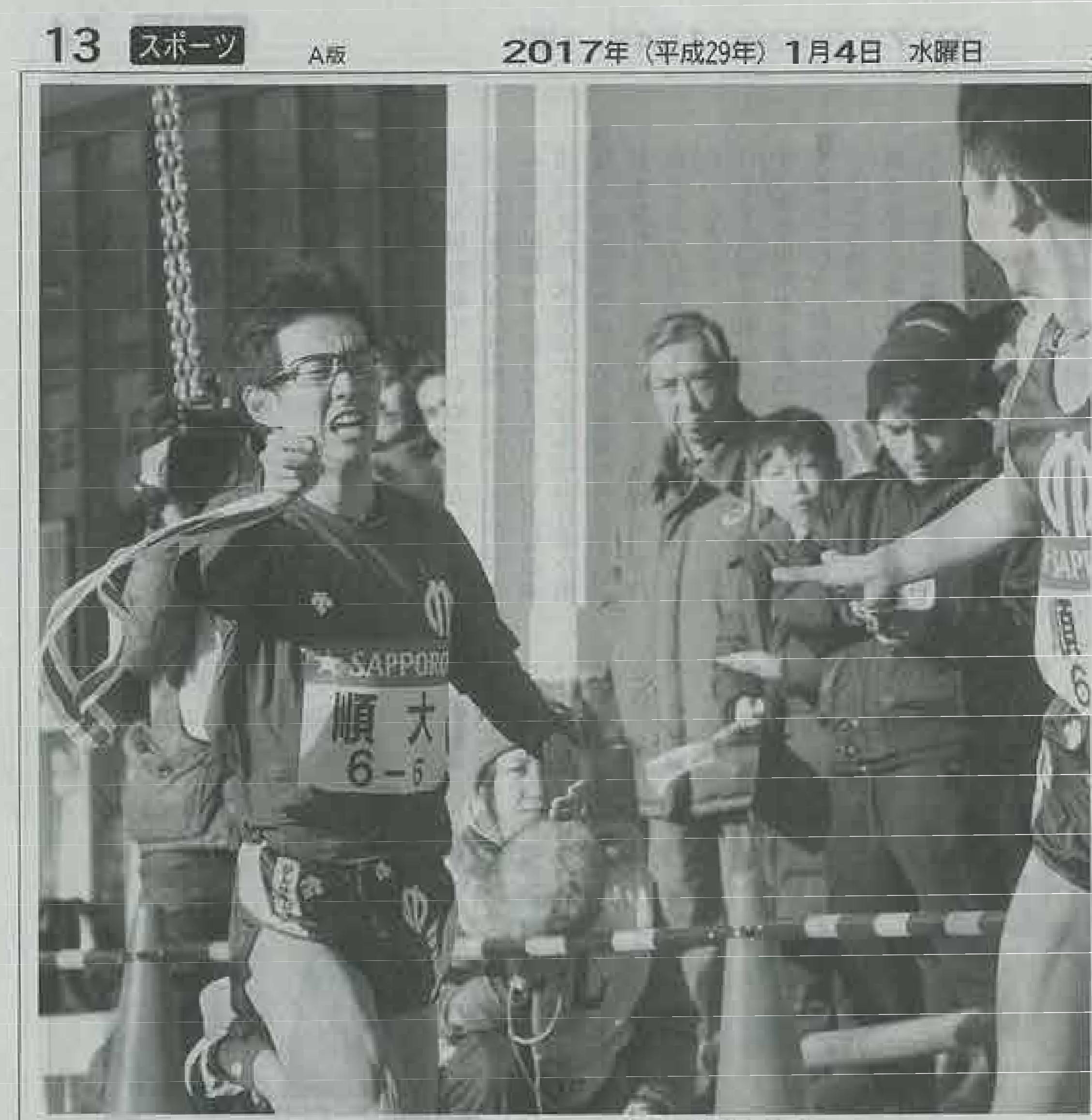
10位を守り、ゴールした東海大の林竜之介
＝東京・大手町（花輪　久写す）

主将「力不足を痛感」

早大 ○…往路2位の早大は33秒差で青学大を追ったが、じわじわと離され、最後は8分16秒もの大差をつけられた。順位も3位に後退し、主将の平は「力不足を痛感した」と言うしかなかった。

山下りの6区を終えて2分8秒差。7区では青学大の田村が終盤に失速したものの、前回9区区間賞の頼みの井戸が1分21秒差としたのが精いっぱい。8区で期待の1年、太田が区間14位に沈んで5分32秒差に開き、平は「この時点で駄目だ」と悟ったという。

相楽監督は往路後に青学大を「射程圏内」と話したが、実際は「往路に主力を投入し、後手に回った」と選手層の違いが大きかったことを認めた。井戸も力の差を見せつけられた6区や8区の走りを挙げ「箱根の特性を考えれば、各区間のプロが2、3人足りなかった」と振り返った。



初の箱根駅伝で6区を走り、3位でたすきをつないだ順大の橋本龍一（左）
＝小田原中継所

法政二高出身1年

順大6区・橋本

攻めて大役果たす

「ハシモトー！」。サポートの上級生の掛け声に最後の力を振り絞った順大の6区橋本は懸命に手を伸ばし、3位を保ってたすきをつないだ。

「もう、気が気じゃなかった。緊張で自分がどこに立っているか分からないぐらいだった」。初めての箱根路。山下りを区間10位で走りきった1年生はようやく緊張感から解放され、紅潮した頬を緩めた。

昨年まで法政二高のエースとして、都大路や全国都道府県駅伝で力走した闘志あふれるランナーだ。優勝11度の名門で大抜てきされたが、前夜は3位での復路スタートに気合がみなぎりすぎ「責任重大。絶対外せない」と考えているうちに眠れなくなった。「目をつぶっているだけでも、睡眠に近い効果がある」と言い聞かせ、一睡もせず朝を迎えたという。

「おまえなら大丈夫だ」と言ってくれたメンバー外の先輩たちの思いに押され、上位の背中を追った。苦しくても、往路4区で区間賞を取った3年生栃木の「攻めの走りを忘れるな」という言葉も足を前に出させた。

「今回は先輩たちの流れに乗っただけ。自分で流れを持ってこられる選手になりたい」。大役を見事に果たし、総合4位に貢献。名門の遺伝子を受け継いでいく。（真野　太樹、写真も）

秋山6人ごぼう抜き

日体大7位

2年連続区間新でMVP

日体大は往路13位から追い上げ、復路3位として前回に並ぶ総合7位でフィニッシュ。2年連続でシード権を得た。

原動力は6区の秋山。往路1位の青学大から6分44秒後にスタートし、カーブの続く山道でもペースを落とすことなく駆け下りて、6人をごぼう抜きする。前回自身が打ち立てた区間記録を8秒更新する58分1秒の走りで今大会の最優秀選手賞にも選ばれた。

2年時から6区を任され、3度目の箱根路だった4年生は「3年間で最高の走り。とてもうれしい」と破顔する。卒業後は実業団入りするランナーは「技術面で特別なことはしなかったけど、去年の走りから周りの声援ががらりと変わり、たくさんの人に応援してもらえた。それが結果につながった」と感謝した。

区間2位の快走で締めたアンカーの主将小野木も頼もしい同級生をたたえる。「（秋山は）異次元の走り。一気にシード圏内に持ってきてみんなに勢いを与えてくれた」と笑顔を浮かべた。（倉住　亮多）

【日体大区間記録】

区	選手名	学年	記録	区間	総合
6区	秋山 清仁	④	58分1秒—区間新	①	⑦
7区	城越 勇星	③	1時間4分45秒	②	⑤
8区	中川 翔太	①	1時間7分57秒	⑫	⑥
9区	室伏 穂高	②	1時間13分26秒	⑭	⑨
10区	小野木 俊	④	1時間11分1秒	②	⑦

最優秀選手に選ばれた日体大の秋山清仁＝東京・大手町

V候補、9位に沈む

駒大 ○…7大会連続でトップ3を守ってきた駒大が9位に沈んだ。5位でスタートした復路は、山下りの6区で物江が区間18位と振るわず、9位に後退。その後も上位に浮上できなかった。優勝候補の一角に推されながら、シード権を失いかねない位置まで追い込まれ、大八木監督は「久しぶりにきつかった。危ないところだった」と胸をなで下ろした。

往路に主力を集めながら出遅れた。復路は5人全員が箱根初出場。うち4人は経験の浅い2年生で、監督は「守りに入る駅伝しかできなかった」という。10区区間6位だった2年の堀合は「来年はどの区間でも3位以内に入ることが目標。チームとしても3番以内を目指してやっていきたい」と巻き返しを期した。

【駒大区間記録】

区	選手名	学年	記録	区間	総合
6区	物江 雄利	②	1時間1分48秒	⑱	⑨
7区	伊勢 翔吾	②	1時間5分48秒	⑫	⑨
8区	広瀬 匠	④	1時間7分42秒	⑩	⑨
9区	片西 景	②	1時間11分8秒	④	⑧
10区	堀合 大輔	②	1時間12分1秒	⑥	⑨

横浜2連勝

京都を下す

B.LEAGUE

バスケットボール男子のBリーグは3日、横浜国際プールで1試合が行われ、中地区5位の横浜が西地区の京都を74—64で破り、2連勝で11勝目（18敗）を挙げた。京都は13勝16敗となった。

チーム	計	1Q	2Q	3Q	4Q
横浜（11勝18敗）	74	22	18	16	18
京都（13勝16敗）	64	19	15	10	20

（横浜国際プール、3160人）

全日本バスケ男子

神大が快勝 2回戦進出

バスケットボールの全日本総合選手権第2日は3日、東京・駒沢体育館などで行われ、女子2回戦で昨年の全国高校選抜優勝大会2位の岐阜女高が岡山・就実高を68—55で退けた。松蔭大は東京医療保健大に48—80で敗れた。

男子1回戦は神奈川大が75—39でSWOOPSに快勝した。

このほか、名古屋経大が京都・東山高に86—75で勝ち、青学大や白鷗大、四国電力なども初戦を突破した。4日の2回戦からBリーグ勢が登場する。

▽男子1回戦

名古屋経大（学生）86—75 東山高（近畿）
青学大（学生）80—65 ナカシマ（中国）
神奈川大（関東）75—39 SWOOPS（東海）
白鷗大（学生）78—72 九州電力（社会人）
関学大（学生）95—87 東海大九州（九州）
四国電力（四国）68—51 宮田自動車（北海道）
JR東日本秋田（東北）78—67 専修大（学生）
早大（学生）80—50 北陸高（北信越）

▽女子2回戦

岐阜女高（東海）68—55 就実高（中国）
筑波大（学生）62—54 羽田（Wリーグ）
新潟（Wリーグ）73—70 鶴屋百貨店（社会人）
山形銀行（東北）63—62 滋賀銀行（社会人）
大阪人間科学大（学生）89—59 紀陽銀行（近畿）
日立ハイテク（Wリーグ）68—57 山梨（Wリーグ）
東京医療保健大（学生）80—48 松蔭大（関東）
愛知学泉大（学生）86—68 白鷗大（学生）

おことわり マイタウンスポーツは休みました。次回は11日に掲載します。